

平成 24 年度畜産経営指導実施結果

平成 25 年 3 月

公益社団法人 新潟県畜産協会

目 次

○ 実施状況の概要	1
○ 指導対象経営の概要	2
○ 継続指導事例の指導結果	3
○ 指導区分別の実施結果の概要	5
○ 緊急課題対応型指導経営体の生産性向上を図るために 実践している取り組み内容	6
・ 酪農経営	6
・ 肉用牛経営	9
・ 養豚経営	11
○ 参考資料	12

1 実施状況の概要

平成24年度の畜産経営指導は、表1に示した4種類の指導区分を設定し、指導は別掲の「平成24年度畜産コンサルタント名簿」に記載した当協会職員4名と協会が依頼した新潟県及び畜産関係団体職員等29名の計33名の畜産コンサルタントが実施した。なお、個別の指導に当たっては、概ね2～3名の畜産コンサルタントで指導班を編成して実施した。

指導実施戸数は、表2のとおり合計40戸であり、特に肉用牛については、本県の「にいがた和牛」増頭に向けた施策の一環として、指導対象を黒毛和種飼養経営体に特化し、指導戸数も3畜種の中で最も多い15戸とした。

本指導実施結果の取りまとめは、現状の畜産経営の収益性を阻害している要因と技術上の課題をより明確なものとするとともに、緊急課題対応型指導では、配合飼料価格の高止まりに対応して、経営改善に努めている先進的な取組内容について、普及を図るため畜種別に整理した。

表1 指導区分と指導内容

指導区分	指導内容
総合	経営診断分析により問題点を把握し、それを改善するための指導
ワンポイント	経営体が抱えている特定課題（生産技術の改善、新技術の導入方策、損益計算書、貸借対照表等の財務諸表の作成・分析手法の習得等）を解決するための指導
フォローアップ	総合診断受診後の経営体への助言・指導内容の定着を図るための指導
緊急課題対応型	配合飼料価格の高止まりの影響により畜産経営の所得が大幅に低下していることから、飼養管理技術等の向上を図るため、通年・継続的に指導を行うとともに、改善効果・経営実績を把握して、他の経営への普及指導に活用

表2 指導実施戸数

区分	総合指導	ワンポイント指導	フォローアップ指導	緊急課題対応型指導	合計
酪農経営	3戸	3戸	5戸	3戸	14戸
肉用牛経営	3	3	6	3	15
養豚経営	3	3	2	3	11
合計	9	9	13	9	40

2 指導対象経営の概要

(1) 経営形態

平成 24 年度に指導を実施した 40 戸の中から、技術水準、所得、財務内容など経営全体の状況を把握できた酪農 6 戸、肉用牛 6 戸、養豚 6 戸の合計 18 戸の診断実績数値を新潟県畜産経営指導指標値と対比して「6 参考資料」として掲載した。

これらの 18 戸について、畜産専業、後継者就農、自給粗飼料生産の状況を取りまとめると表 3 のとおりであった。畜産専業戸数割合は酪農が 100%、養豚は 33.3%であり、肉用牛は全て稲作との複合経営であった。

また、後継者就農状況は、18 戸のうち 15 戸 (83.3%) でいずれの畜種でも高い割合で後継者が就農していた。

酪農、肉用牛における自給粗飼料生産状況は、和牛繁殖がすべて、和牛肥育では 3 戸 (75%) が自給粗飼料生産に取り組んでいたが、酪農では 2 戸 (33.3%) と少なかった。

表 3 指導対象経営の経営形態 (戸、%)

区 分	酪農経営	肉用牛経営		養豚経営	合 計
		繁殖経営	肥育経営		
診 断 実 績 掲 載 戸 数	6	2	4	6	18
畜 産 専 業 戸 数	6 (100)	0 (0)	0 (0)	2 (33.3)	8 (44.4)
後 継 者 就 農 戸 数	5 (83.3)	2 (100)	3 (75.0)	5 (83.3)	15 (83.3)
自 給 粗 飼 料 生 産 戸 数	2 (33.3)	2 (100)	3 (75.0)		7 (58.3)

(注) 自給粗飼料生産戸数の合計は酪農経営、肉用牛経営戸数に対する比率で示した。

(2) 飼養規模

指導対象経営の飼養規模を新潟県が取りまとめた家畜頭羽数調査結果 (平成 24 年 2 月 1 日現在) と比較すると、次のとおり比較的規模の大きな経営であった。

- ・ 酪農は経産牛規模が 28.6～63.0 頭の範囲にあり、県平均の 25.9 頭を全て上回っていた。
- ・ 和牛繁殖は繁殖牛規模が 31.2～35.8 頭の範囲にあり、県平均の 5.6 頭を大きく上回り、和牛肥育でも肥育牛規模が 46.4～106.8 頭と県平均の 24.9 頭を全て上回っていた。
- ・ 養豚は種雌豚規模が 47.1～200.3 頭の範囲にあり、県平均の 112.2 頭以上の経営が 3 戸と半数を占めた。

3 継続指導事例の指導結果

平成 23 年度、24 年度に継続して指導を実施し、技術レベルの分析を行うために必要なデータを把握できた経営は、酪農 7 戸、和牛繁殖 2 戸、和牛肥育 11 戸、養豚 4 戸の計 24 戸あった。

(1) 酪農経営

酪農では、表 4 に示したとおり、経産牛 1 頭当たり乳量が 313kg 減少し、生乳 1kg 当たり販売乳価が 0.48 円下がっていた。

今後改善すべき課題は、夏季の暑熱の影響等により受胎率が低下し、分娩間隔が 15.9 か月と長くなっているため、13.5 か月を目標に短縮を図ることである。そのためには、暑熱対策の徹底とともに繁殖障害牛の早期治療の実施、必要養分量に見合った飼料の適正給与等が必要である。

表 4 酪農経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：7 戸)

区 分	単位	指標値	平成 23 年	平成 24 年	増減
経産牛 1 頭当たり乳量	kg	9,300 以上	9,219	8,906	▲313
生乳 1kg 当たり販売乳価	円	-	117.48	117.00	▲0.48
平均分娩間隔	月	13.5 以内	15.8	15.9	0.1
経産牛処分率	%	-	33.4	36.5	3.1
平均体細胞数	万个	16 以下	29.3	24.1	▲5.2

(2) 和牛繁殖経営

和牛繁殖では、表 5 に示したとおり、日齢体重が雌・雄子牛ともに改善しており、特に雌子牛は指標の 0.96 を上回って良好であった。また、販売価格は雌・雄子牛ともに大幅に上昇した。

今後改善すべき課題は、分娩間隔 12 か月以内を目標に短縮を図ることである。また、生産した子牛をさらに高値で販売するために、高能力繁殖牛への更新が必要である。

表 5 和牛繁殖経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：2 戸)

区 分	単位	指標値	平成 23 年	平成 24 年	増減
雌子牛販売価格	円	-	333,179	377,563	44,384
雄子牛販売価格	円	-	446,696	491,925	45,229
平均分娩間隔	月	12 以内	12.0	12.3	0.3
雌子牛日齢体重	kg	0.96 以上	0.93	0.98	0.05
雄子牛日齢体重	kg	1.07 以上	1.04	1.05	0.01

(3) 和牛肥育経営

和牛肥育は、表 6 に示したとおり、枝肉格付 4 等級以上率が 6.6 ポイント上昇し、枝肉 1kg 当たり販売価格も 22 円上昇した。

今後改善すべき課題は、去勢牛 1 日当たり増体重が指標値以下の経営が 5 戸 (45.5%)、また、事故率が指標値以上の経営が 3 戸 (27.3%) 見られたことから、基本的な飼養管理と衛生管理の徹底が必要である。

表 6 和牛肥育経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：11 戸)

区 分	単位	指標値	平成 23 年	平成 24 年	増減
枝肉 1kg 当たり販売価格	kg	-	1,888	1,910	22
販売肥育牛素牛費	円	-	814	822	8
去勢牛平均枝肉重量	kg	470 以上	493	495	2
去勢牛 1 日当たり増体重	kg	0.78 以上	0.81	0.81	0
事 故 率	%	2 以下	1.4	1.4	0
枝肉格付 4 等級以上率	%	70 以上	71.5	78.1	6.6

(4) 養豚経営

養豚では、表 7 に示したとおり、枝肉上物率が 1.9 ポイント低くなり、枝肉 1kg 当たり販売価格も 29 円安くなった。

今後改善すべき課題は、肉豚事故率が 9.4%と指標の 3.0%を大きく上回っていることから、衛生管理の徹底と疾病対策の強化が必要である。

表 7 養豚経営における継続指導事例の分析数値 (集計戸数：4 戸)

区 分	単位	指標値	平成 23 年	平成 24 年	増減
枝肉 1kg 当たり販売価格	円	-	453	424	▲29
年間換算離乳子豚頭数	頭	23 以上	22.3	22.9	0.6
肉 豚 事 故 率	%	3 以下	8.3	9.4	1.1
1 日 当 たり 増 体 量	g	670 以上	661	662	1
枝 肉 上 物 率	%	60 以上	51.6	49.7	▲1.9

4 指導区分別の実施結果の概要

(1) 総括

平成 24 年度の指導結果は、配合飼料価格の高止まり等による生産コストの上昇や畜産物の消費低迷に伴う販売価格の下落等から、非常に厳しい状況となった。

特に養豚では、6 戸全ての所得率が指標を大きく下回り、うち 3 戸がマイナス所得となった。

(2) 総合指導

総合指導では、対象の 9 戸について、技術・財務面を含めた経営全般の分析を行い、対象経営が抱える問題点を把握して改善指導を実施した。

- ・ 酪農は対象の 3 戸のうち、2 戸で平均分娩間隔が指標の 13.5 か月を上回ったことから、発情発見率の向上、飼料給与体系の改善、繁殖障害牛の早期治療の実施について指導した。
- ・ 肉用牛は対象の 3 戸のうち、2 戸で事故率が指標の 2%を上回ったことから、飼料給与体系の改善と衛生管理の徹底について指導した。
- ・ 養豚は対象の 3 戸全てで離乳時育成率が指標の 90%を下回り、年間換算離乳子豚頭数も指標の 23 頭を下回ったことから、哺乳中の子豚の管理の徹底について指導した。

(3) ワンポイント指導

ワンポイント指導では、課題を解決するための生産技術指導を 9 戸の経営を対象として実施した。畜種別に改善が必要な特定課題と指導内容は次のとおりである。

- ・ 酪農は、対象の 3 戸のうち、2 戸で分娩間隔が長いこと及び体細胞数が高いことから、繁殖成績の改善と乳房炎の防除対策について重点的に指導した。
- ・ 肉用牛は、対象の 3 戸のうち、枝肉格付 4 等級以上率が低い (1 戸)、1 日当たり増体重が小さい (1 戸)、事故率が高い (1 戸) であり、肥育ステージに応じた飼料給与体系への変更や衛生管理の徹底について指導した。
- ・ 養豚は対象の 3 戸全てで肉豚事故率が高く、2 戸で 1 日当たり増体量が小さいことから、肉豚の事故防止対策、飼料給与体系の改善等について指導した。

(4) フォローアップ指導

フォローアップ指導では、総合診断受診後の助言・指導内容の定着を図るための指導を13戸の経営を対象に実施した。

- ・ 酪農は、対象が5戸で、うち1戸は課題であった体細胞数が63万個から35万個に減少し、2戸はMUNが7.1及び8.4mg/dlと低かったが、いずれも11.8mg/dlと適正範囲に改善した。しかし、経産牛1頭当たり乳量が前年より少なくなっていたので、高品質乾草の給与など飼料給与体系の改善について指導した。
- ・ 肉用牛は、対象の6戸のうち、和牛繁殖が1戸、和牛肥育が5戸であり、和牛繁殖の課題は受胎までの日数であったが、前年の77.4日から73.1日に改善した。和牛肥育では、5戸中1戸で枝肉格付4等級以上率が46.9%と指標を下回っていたが、今期は56.3%に改善していた。しかし、未だ指標の70%を下回っているため、ビタミンAのコントロールについて指導した。
- ・ 養豚は対象が2戸で、離乳から受胎までの日数が課題であった経営は、56.4日から15.1日に大幅に改善されたが、肉豚事故率が課題であった経営は、前年より0.4%悪化していた。両経営とも肉豚出荷頭数が前年より減少していたことから、肉豚管理の徹底と疾病対策について指導した。

(5) 緊急課題対応型指導

緊急課題対応型指導では、配合飼料価格の高止まりに対応して多様な工夫や対策を行い、生産性の向上に努めている9戸（酪農3戸、肉用牛3戸、養豚3戸）について取り組み内容を調査し、表8-1～表10のとおり畜種別に整理した。

ア 酪農経営

表8-1 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
飼料の効率的な給与と生産乳量の向上	飼料用トウモロコシ、稲発酵粗飼料及び飼料用米を利用した品質の一定した完全混合飼料を調製し、年間を通じて1種類の飼料を給与するとともに飼料給与作業を効率化	夏季（7～9月）の暑熱による飼料摂取量の減少を防止でき、搾乳牛1日1頭当たり乳量30.1kg（他期間平均30.9kg）、乳脂率3.73%（他期間平均3.74%）と生産性の低下を防ぐことができたため、経産牛1頭当たり年間乳量で10,137kgの高乳量を達成できた。
		経産牛50頭規模の経営で、飼料給与作業は1人で、朝・夕2回（各1時間30分）で実施でき効率化が図られた。

表 8-2 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
低コスト自給飼料の確保	5 戸の酪農家で新たに自給飼料生産組合を設立し、未耕作地を活用して飼料用トウモロコシ 11ha を栽培、サイレージに調製して搾乳牛に給与	補助事業を活用して、作業機（細断型ロールベアラ等）を低価格で導入でき、さらに共同作業による作業効率の向上により、トウモロコシサイレージを TDN1kg 当たり 75 円（チモシー購入乾草 114 円）と購入乾草の 66% の価格で調達し、年間飼料費を 42 万円節減できた。
	自給飼料生産組合と耕種農家の連携により飼料用稲 23.4ha の収穫・調製作業を受託し、発酵粗飼料として搾乳牛に給与	飼料稲発酵粗飼料を TDN1kg 当たり 65 円と購入乾草の 57% の価格で調達し、年間飼料費を 80 万円節減できた。
	耕種農家と連携して飼料用米（35.5ha 分）を自給飼料生産組合が購入した破砕機で破砕し、搾乳牛に配合飼料の代替として 1 日 1 頭当たり 3.5kg 給与	飼料用米を 1kg 当たり 30 円と配合飼料の約半額で調達し、年間飼料費を 200 万円節減できた。さらに、搾乳牛 1 頭当たり日乳量が飼料用米給与前の 30.1kg から給与後は 32.8kg に向上した。
乳房炎の防除	毎月 1 回、ミルカーの分解掃除を実施し、衛生的な管理、故障か所の早期発見、ライナーゴム等消耗品の早期交換を実施	乳房炎牛の発生防止と早期治療により生乳中の年間平均体細胞数を 16.8 万個に低減でき、生乳生産性の向上が経産牛 1 頭当たり 9,511kg の高乳量につながり、良質乳生産奨励金を年間 92 万円受領できた。
	牛体の上にカウトレーナーを設置し、牛床のふん尿による汚れを防止	
	乳房の長い毛をバーナーで焼くことにより乳房の汚れを防止	
	搾乳牛で乳房炎の疑いのある牛は家畜保健衛生所に依頼して乳汁検査を実施し、黄色ブドウ球菌に感染した場合は別管理して他の牛への感染を防止	
	乾乳前及び分娩予定日の 10 日前に乳汁検査を実施し、異常牛は乳房炎軟膏で早期治療	
乳房炎牛には分娩直前にカルシウム剤とともに高単位のビタミン AD3E 剤を投与		

表 8-3 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
飼養牛の事故防止	<p>関節炎の発生を防止するため、牛の大型化により短くなった牛床をアンカーと木材を利用して 15cm 延長し、やわらかい牛床マットを設置</p>	<p>経産牛処分率が 14.3%と低く抑えられたことから、経産牛頭数を前年の 58 頭から 63 頭に増頭でき、年間生乳販売収入が 440 万円増加した。</p>
	<p>乾乳牛房を設置し、そこで分娩させることにより分娩事故を防止</p>	
	<p>肢蹄の弱い牛、黄色ブドウ球菌に感染した牛、過肥となった牛等は個体管理を強化</p>	
夏季の暑熱による被害の防止	<p>換気扇 14 台を利用したトンネル換気システムと細霧システムを併用し、牛舎内の風速が 3~4m/秒となるよう通風</p>	<p>暑熱による死亡・廃用牛の発生が全くなく、泌乳量の低下も防止できた。</p>
	<p>牛舎屋根に 6~9 月まで遮光シートを設置し畜舎内温度の上昇を緩和</p>	
	<p>給水設備に連続水槽を採用し、夏季の牛の飲水量増加に対応</p>	
	<p>飼槽をステンレスに改造して掃除作業労力を軽減し、飼料の変敗を防止</p>	
	<p>飼料を 1 日 5 回の多回給与により採食量の低下を防止するとともに、7~9 月までは昼 11 時の給与を夜 9 時の涼しい時間帯での給与に変更</p>	

イ 肉用牛経営

表 9-1 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
肥育管理技術の向上	牛群頭数を1群4頭とし、 個体観察を強化するとともに、 1頭当たり牛床面積を 7.3m ² （指標値：6.0m ² ）確保 してストレスを軽減	牛に快適な環境の整備、個体観察の強化による飼料給与の微調整や疾病の早期発見、過去のデータを参考にした素牛選定により、枝肉格付4等級以上率74%と、指標値70%以上を達成した。
	個体の履歴をその場で確認 できるよう、牛房ごとに肥育 牛の個体識別番号、導入年月 日、導入日齢・体重、血統等 の情報を掲示	
	過去の肥育牛の導入・出荷 実績をパソコン上にまとめて 管理	
	特定の肥育牛に対し、体重 測定を年3回実施し、現在の 飼養管理における増体傾向を 把握	個体に合った適切な飼料給与量に調節することで、個体間の増体のバラツキが抑制された。
	群飼において、個体間の飼 料採食量に差が出ないよう、 採食状況を見ながら給与量を 増減	
	日齢体重の小さい導入素牛 は、肥育前期に高タンパク質 飼料を多めに給与	
	素牛導入では、育成期の飼 養管理の情報を収集し、適切 に管理された素牛を導入	
	採食後に残飼の掃き寄せを 実施	飼い直しの長期化や疾病発生 のリスクを低減でき、肥育日数 589日と指標値600日以内を 達成した。
	32.4haの草地を2戸共同で 管理し、作業機を共同で使用 し粗飼料を収集	給与分を無駄なく食い込ませる ことにより、飼料給与ロス を低減できた。
	地域の耕種農家から現金取 引や堆肥・精肉交換で稲わら を収集	作業機の維持コストを低減す ることにより、牧乾草を1kg 当たり生産費で24.4円と購 入乾草の40%程度で確保 できた。 また、粗飼料自給率は91% となっている。
	耕種農家と直接取引すること により、1kg当たり20円と、 購入稲わらの半額程度で確 保できた。	

表 9-2 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
分娩間隔の短縮	繁殖牛の牛房の屋外にパドックを設置し、十分に歩き回れるスペースを確保	発情行動の観察が容易になったことで、適期に授精できるようになった。 併せて、体調把握と早期の疾病発見が可能となった。
	繁殖牛の観察回数・観察時間の増加	発情の見落としが少なくなり、また適期に授精が可能で、授精回数が
	家畜人工授精師の資格を取得し、常時人工授精を実施できる体制を整備	1.5回と指標値（1.5回）を達成した他、分娩間隔が 12.0 か月と、1年1産を達成した。
	分娩後 60 日を過ぎても受胎しない牛の早期診察・治療を徹底	不受胎牛に早期に対応することで、空胎期間が 74 日（1年1産の目安：80 日以内）に短縮された。
暑熱対策	牛舎の屋根に断熱材を使用し、屋外からの熱の侵入を抑制するとともに、風下に向けた換気扇により強制換気	牛舎内の温度上昇を抑制し、牛の暑熱ストレスを軽減できた。
	西日が差し込む牛舎側面に寒冷紗を設置	
	敷料交換を 7～10 日に 1 回とこまめに行い、発酵熱を抑制	
	飼料タンクにカバーを設置	暑熱による飼料の変敗を防止でき、飼料のロスや変敗した飼料の給与を防止できた。
防寒対策	子牛の牛房に保温マットを設置し、子牛を保温	防寒対策の徹底により、冬季の子牛の疾病を 2 件に抑えられた。
	牛舎入口の隙間にベニヤ板を設置し、隙間風を防止	
衛生環境の向上	給餌後の飼槽清掃を徹底し、清潔な状態を維持	残飼の変敗防止や衛生的な環境の維持により、疾病の発生を予防できた。
	牛舎通路を朝夕の 2 回清掃し、清潔な環境を整備	

ウ 養豚経営

表 10 生産性向上を図るために実践している取り組み内容

目 的	取り組み内容	効 果
生産コストの低減	子豚期用飼料（生後 10～60 日齢）に飼料用米を約 14%添加して給与	離乳子豚 1 頭当たりの子豚期の飼料費は、配合飼料単独給与時に比べ、705 円の節減効果があった（粉碎、混合及び攪拌に係る自家労賃を含む）。 離乳から出荷までの 1 日当たり増体量が向上し、肉の品質は同等となることが確認された。
暑熱対策	肉豚舎はカーテンを密閉し、換気扇 10 台を利用したトンネル換気を実施	豚舎内の温度上昇を防ぐことで夏季の飼料採食量の落ち込みによる発育停滞を抑制し、肉豚 1 日当たり増体量は 668g と良好であった。
	種豚舎は 2 方向の送風が可能となるようにダクトを設置	種雌豚の後頭部に送風して食欲減退を防止するとともに、豚舎奥の空気が滞留する場所への通気の確保に努めている。
	外部からの直射日光の遮断及び屋根焼けを防止するため、豚舎周辺に植樹	夏バテによる飼料採食量の落ち込みを防止し、種雌豚の健康状態が良好に保たれることで繁殖成績が高位に安定しており、特に、流産・早産発生率が 0% と良好であった。
防寒対策	冬季以外は、熱量が低い電気コルツヒーターで哺乳子豚の保温をしているが、冬季は寒さに対応するために熱量が高いガスパンヒーターを併用	保温効果が一因となり、離乳時育成率は 92.7% と高位に安定している。
適正範囲内での肉豚出荷の励行	出荷前に必ず肉豚の体重を測定	適正な出荷体重が維持されて、肉豚上物率は 59.5% と高位に安定している。
衛生に対する意識向上	出荷用トラックにクリーンポーク生産農場認定マークをペイント	農場の PR をするとともに、常に認定マークを見ることにより、自身の衛生に対する意識向上・維持につながっている。
	農場の入口に霧状に噴射される車両消毒ゲートを設置	タイヤだけでなく、車両全体の消毒が可能となった。 また、部外者の衛生に対する意識向上につながっている。

6 参考資料

酪農部門

1 生産技術数値

区	分	指標値	最大値	最小値	経営体番号					
					1	2	3	4	5	6
診	断	間			23.7.1~ 24.6.30	24.1.1~ 24.12.31	23.9.1~ 24.8.31	24.1.1~ 24.12.31	23.10.1~ 24.9.30	23.7.1~ 24.6.30
	規	畑 a	1,490	0	0	688	0	0	1,490	0
技	模	産牛頭	63.0	28.6		48.2	44.6	37.6	32.2	28.6
	乳	産牛平均産歴産	3.8	2.4	3.5以上	2.4	2.6	3.2	3.8	3.3
	牛	産牛平均分娩間隔月	19.9	13.5	13.5以内	15.0	16.8	13.8	13.5	19.9
	牛	産牛平均種付回数	4.0	1.9	2.0以内	2.0	1.9	2.3	2.2	4.0
管	理	産牛処分率%	38.1	10.5		35.3	38.1	31.9	18.6	10.5
	成	搾乳牛1頭当たり産乳量 kg	11,265	8,591		11,265	9,255	9,318	9,991	8,591
績	料	産牛1頭当たり産乳量 kg	10,137	7,875	9,300以上	10,137	8,283	8,014	8,680	7,875
	給	濃厚飼料1kg当たり産乳量 kg	2.90	1.78		2.51	2.06	2.52	2.90	1.78
	与	脂肪率%	4.08	3.64	3.8以上	3.74	3.64	3.78	4.08	4.04
	与	無脂固形分率%	8.88	8.63	8.8以上	8.86	8.63	8.82	8.88	8.87
績	給	体細胞数千個	389	141	160以下	141	253	237	220	389
	給	産牛1頭当たり濃厚飼料給与量 kg	4,413	3,000	3,425	4,037	4,021	3,171	3,000	4,413
	与	産牛1頭当たり粗飼料給与量 kg	5,469	3,476	4,900	5,191	3,476	5,469	5,390	3,628
	与	給与充足率 C P %	124.3	104.5		124.3	114.9	108.7	104.5	107.6
績	給	給与充足率 T D N %	115.7	101.6		107.2	102.2	115.7	101.6	107.4
	与	体重に対する給与割合粗飼料%	4.1	3.4		4.0	3.4	3.8	3.6	3.5
績	給	給与割合粗飼料%	2.4	1.6		2.3	1.6	2.4	2.3	1.6

2 経営数値

区分	指標値	最大値	最小値	経営						体	番	号
				1	2	3	4	5	6			
技術管理	経産牛1頭当たり作付実面積 a	50.9	0	0	14.3	0	0	0	0	50.9	0	
	T D N 自給率 %	21.2	0	0	9.8	0	0	0	0	21.2	0	
	飼料10a当たり収量	1,760	1,760	-	-	-	-	-	-	1,760	-	
	青刈作物永年牧草 kg	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	
生産管理	生草	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1kg当たり生産費	15.64	10.89	-	10.89	-	-	-	-	15.64	-	
	乾草	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	労働	120.0	123.0	149.9	173.1	147.7	241.5	123.0	136.0			
業績	経産牛1頭当たり飼養管理時間	3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-	
	労働10a当たり飼料栽培時間	8.0	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	出荷	118.16	115.73	118.16	117.41	115.73	117.44	117.90	118.14			
	生産原価	135.93	105.90	107.93	108.80	127.26	135.93	105.90	116.37			
経営管理	生乳1kg当たり総原価	144.34	116.40	116.40	116.70	130.32	144.34	118.45	133.31			
	生乳1kg当たり生産原価	101.43	81.90	101.43	83.68	99.16	91.90	81.90	90.69			
	自家労賃控除後総原価	109.90	91.58	109.90	91.58	102.22	100.31	94.45	107.62			
	経産牛1頭当たり所得	264,020	78,453	78,453	264,020	99,650	137,080	203,768	82,759			
管理	1日当たり所得	34,770	6,467	13,504	34,770	12,143	14,082	17,927	6,467			
	所得率 %	21.0	6.6	6.6	21.0	10.0	13.8	18.8	8.4			
	乳飼比率 %	65.6	37.6	55.0	53.0	65.6	60.7	37.6	56.2			
	うち経産牛当たりの乳飼比率 %	55.8	35.4	53.5	43.3	55.8	51.4	35.4	54.2			
全成績	支払利息対売上高比率 %	0.5	0.0	0.1	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0			
	減価却費対売上高比率 %	20.7	10.2	14.1	10.2	20.7	12.2	13.3	12.9			
	自己資本比率 %	94.7	▲ 270.1	85.4	4.1	41.6	78.7	94.7	▲ 270.1			
	流動比率 %	878.6	85.7	320.3	85.7	405.8	351.0	878.6	188.7			
安全性	経産牛1頭当たり固定資産額	1,175	267	662	379	1,175	267	531	273			
	経産牛1頭当たり負債額	1,575	47	118	644	906	103	47	1,575			

(注)1 飼料生産における1kg当たり生産費は自家労賃控除額で示した。
 2 経産牛1頭当たり負債額は流動+固定負債の期首・期末の平均で示した。

和牛繁殖部門

1 生産技術数値

区	分	指標値	最大値	最小値	經營		体	番	号	
					1	2				
技術	繁殖	繁殖牛飼養規模	35.8	31.2	/	24.1.1~ 24.12.31	35.8	24.1.1~ 24.12.31	31.2	
		繁殖牛1頭当たり飼料畑面積	52.1	45.4						52.1
		繁殖牛1頭当たり年間労働力時間	118.5	91.9						91.9
	平均産次(供用産次)	7.0以上	6.4	5.4	6.4					
	平均分娩間隔	12.0以内	12.5	12.0	12.5					
	受胎に要する種付回数	1.5以下	1.9	1.5	1.9					
	ET含年間子牛生産頭数		38	29	38					
	ET含年間子牛販売頭数		19	18	19					
	子牛	育成	販売時日齢	270以上	304	304	320	304	304	
			販売時体重	260以上	315	295	295	315		
日齢			0.96以上	1.04	0.92	0.92	1.04			
子牛		販売時日齢	270以上	284	277	277	277	284		
		販売時体重	290以上	301	286	301	301	286		
		日齢	1.07以上	1.08	1.02	1.08	1.02			
子牛事故率	3.0以下	6.3	5.6	5.6	6.3					
販売	雌子牛販売価格		378,525	376,600	376,600	378,525	376,600			
	雄子牛販売価格		505,050	478,800	478,800	505,050	478,800			
	平均		478,413	461,767	461,767	478,413	461,767			

2 経営数値

技術管理成績	飼料		区分	指標値	最大値	最小値	経営体番号	
	給与	濃厚飼料					1	2
繁殖牛1頭当たり	1日当り量	濃厚飼料	kg	1.5	1.5	1.4	1.4	1.5
	飼料費	粗飼料	kg	7.7	7.0	6.1	7.0	6.1
子牛1頭当たり	1日当り量	濃厚飼料	kg	2.0	3.6	3.4	3.6	3.4
	飼料費	粗飼料	kg	1.6	0.9	0.9	0.9	0.9
粗飼料自給率	1日当り量	濃厚飼料	kg	3.6	4.5	4.3	4.5	4.3
	飼料費	粗飼料	kg	3.6	4.5	4.3	4.5	4.3
自家労賃控除後原価	1日当り量	濃厚飼料	円	313	313	309	313	309
	飼料費	粗飼料	円	114,558	114,558	113,094	114,558	113,094
繁殖牛1頭当たり所得	1日当り量	濃厚飼料	%	88.0以上	90.7	89.2	89.2	90.7
	飼料費	粗飼料	%	88.0以上	90.7	89.2	89.2	90.7
支払利息対売上高比率	1日当り量	濃厚飼料	円	342,876	342,876	296,391	296,391	342,876
	飼料費	粗飼料	円	366,506	366,506	328,875	328,875	366,506
減価償却費対売上高比率	1日当り量	濃厚飼料	円	133,336	133,336	108,839	133,336	108,839
	飼料費	粗飼料	円	28.5	28.5	25.3	28.5	25.3
自己資本比率	1日当り量	濃厚飼料	%	35.0以上	28.5	25.3	28.5	25.3
	飼料費	粗飼料	%	35.0以上	28.5	25.3	28.5	25.3
流動比率	1日当り量	濃厚飼料	%	4.0以下	0	0	0	0
	飼料費	粗飼料	%	4.0以下	0	0	0	0
繁殖牛1頭当たり資産額	1日当り量	濃厚飼料	%	15.0以下	22.7	16.3	16.3	22.7
	飼料費	粗飼料	%	15.0以下	22.7	16.3	16.3	22.7
繁殖牛1頭当たり負債額	1日当り量	濃厚飼料	%	50.0以上	74.0	65.1	74.0	65.1
	飼料費	粗飼料	%	50.0以上	74.0	65.1	74.0	65.1
技術管理成績	1日当り量	濃厚飼料	%	100.0以上	1,033.4	964.6	964.6	1,033.4
	飼料費	粗飼料	%	100.0以上	1,033.4	964.6	964.6	1,033.4
経営管理成績	1日当り量	濃厚飼料	千円	780	780	691	780	691
	飼料費	粗飼料	千円	241	241	203	203	241

和牛肥育部門

1 生産技術数値

区 分	指 標 値	最 大 値	最 小 値	經 営 体 番 号			
				1	2	3	4
診 断 期 間				24.1.1~ 24.12.31	23.11.1~ 24.10.31	24.1.1~ 24.12.31	24.1.1~ 24.12.31
規 模				106.8	73.8	65.9	46.4
肥 育 牛 飼 養 規 模	頭	106.8	46.4				
肥 育 牛 1 頭 当 た り 勞 働 時 間	時 間	49.4	40.0				
期 間 販 売 頭 数	頭	56	24				
出 荷 頭 数	頭	56	24				
出 荷 月 齢	カ 月	30.8	28.3				
去 肥 育 日 数	日	738	589				
出 荷 体 重	kg	849	779				
牛 枝 肉 重 量	kg	529	491				
1 日 当 た り 増 体 重	kg	0.93	0.74				
枝 肉 格 付 4 等 級 以 上 率	%	75.0	66.1				
事 故 率	%	8.2	0				
販 売 牛 1 頭 当 た り	円	927,403	849,574				
枝 肉 1 kg 当 た り	円	1,873	1,638				
濃 厚 飼 料	kg	8.2	7.2				
粗 飼 料	kg	2.7	1.7				
肥 育 牛 1 頭 1 日 当 た り 給 与 量	kg	10.4	8.9				
飼 料 給 与	kg	12.4	9.9				
1 日 当 た り	円	570	506				
飼 料 費	円	711	562				
増 体 1kg 当 た り	円	613	581				
成 績				849,574	857,582	927,403	894,484
				1,638	1,747	1,873	1,690
				7.7	8.2	7.5	7.2
				2.7	1.8	1.7	1.7
				10.4	10.0	9.2	8.9
				11.2	11.4	12.4	9.9
				570	511	526	506
				613	581	711	562

2 経営管理成績

区	分	指標値	最大値	最小値	経営体番号			
					1	2	3	4
原	素牛費	円	463,584	363,457	363,457	402,233	447,773	463,584
	販売牛1頭当たり生産原価	円	1,037,665	899,957	1,026,581	899,957	985,091	1,037,665
價	総原価	円	892,384	805,408	805,408	834,242	842,725	892,384
	素牛費	円	904	701	701	819	904	876
營	販売牛枝肉1kg当たり生産原価	円	1,990	1,833	1,979	1,833	1,990	1,960
	総原価	円	1,702	1,553	1,553	1,699	1,702	1,686
管	出荷牛1頭当たり所得	円	185,793	94,516	94,516	157,828	185,793	133,164
	肥育牛1頭当たり所得	円	112,773	49,559	49,559	81,266	112,773	68,878
理	肥育牛1頭当たり受領額	円	26,385	24,080	24,903	26,385	24,080	25,198
	肥補牛1頭当たり受領額	円	88,693	24,656	24,656	54,881	88,693	43,680
成	所得率	%	20.0	11.1	11.1	17.8	20.0	14.4
	支払利息対売上高比率	%	1.9	0	0	0.2	0.5	1.9
績	減価償却費対売上高比率	%	7.1	2.9	3.5	7.1	2.9	3.9
	自己資本比率	%	93.0	17.1	93.0	-	45.4	17.1
性	流動比率	%	1,891.6	359.7	1,504.1	-	359.7	1,891.6
	肥育牛1頭当たり資産額	千円	832	705	832	-	799	705
	肥育牛1頭当たり負債額	千円	584	58	58	-	436	584

養豚部門

1 生産技術数値

規 模	規 模	区 分	指標値	最大値	最小値	經 営 体 番 号					
						1	2	3	4	5	6
		診 断 期 間				23.6.1~ 24.5.31	23.10.1~ 24.9.30	24.1.1~ 24.12.31	23.7.1~ 24.6.30	23.10.1~ 24.9.30	24.1.1~ 24.12.31
		種 雌 豚 頭		200.3	47.1	200.3	182.9	114.9	103.4	54.8	47.1
		種 雄 豚 頭		17.1	3.0	17.1	5.0	6.2	7.7	3.0	3.0
		種雄豚1頭当たり種雌豚頭数		36.6	11.7	36.6	36.6	18.5	13.4	18.3	15.7
		種雌豚更新率%		62.8	27.9	62.8	27.9	42.6	62.8	36.5	44.6
		種雌豚平均産歴産		5.6	3.0	5.6	4.3	3.0	4.0	3.9	4.4
		1 腹当たり分娩頭数	11.5以上	12.9	11.0	12.4	11.1	12.9	11.8	11.0	12.1
		〃 死産頭数		1.4	0.3	1.3	1.0	1.4	1.2	0.3	1.1
		〃 哺乳開始頭数	10.9以上	11.5	10.1	11.1	10.1	11.5	10.6	10.7	11.0
		流産・早産等発生率%		4.27	0.00	0.41	1.38	1.95	1.24	4.27	0.00
		1 腹当たり離乳頭数	9.5以上	10.2	8.1	9.7	8.8	9.9	8.1	9.6	10.2
		離乳平均哺乳日数	24	28.9	20.3	20.3	22.1	24.9	22.0	28.9	26.9
		子豚1頭当たり離乳時体重	6以上	6.0	5.0	5.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
		離乳時育成率%	90以上	92.7	76.4	87.4	87.1	86.1	76.4	89.7	92.7
		離乳～受胎平均日数	12以内	19.8	13.7	14.9	16.8	19.8	18.6	19.2	13.7
		分娩間隔	150以内	162.1	149.2	149.2	152.9	158.7	154.6	162.1	154.6
		年間回転	2.43以上	2.45	2.26	2.45	2.39	2.31	2.37	2.26	2.37
		年間換算離乳子豚頭数	23以上	24.2	19.2	23.8	21.0	22.9	19.2	21.7	24.2
		飼料 種雌豚1頭当たり年間換算給与量	1,050	1,158	984	1,107	1,061	1,044	1,158	984	1,154
		種雌豚1日1頭当たり労働時間	4.5	12.6	3.0	3.0	4.1	3.1	6.8	12.6	5.2
		肥育豚1日1頭当たり労働時間	0.5	1.9	0.3	0.3	0.6	0.6	0.8	1.9	0.5
		出荷豚1頭当たり労働時間	2.2	11.3	1.8	1.8	2.7	3.1	4.3	11.3	2.7

2 経営数値

技術管理成績	区分		指標値	最大値	最小値	経営						番		号	
	1	2				3	4	5	6	1	2	3	4		5
肥育部	肉種	豚	1頭当たり	2,032.4	430.1	2,032.4	1,306.3	825.2	905.4	430.1	443.4				
	雌豚	1頭当たり	模数	21.9	14.1	21.0	18.3	14.1	19.3	14.9	21.9				
	肥育開始時	体重	kg	6.0	5.0	5.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0				
	肥育増体	1日当たり	増体	116.1	107.6	116.1	107.6	109.5	110.4	110.8	112.8				
	肥育増体	1日当たり	増体	111.1	101.6	111.1	101.6	103.5	104.4	104.8	106.8				
	肥育増体	1日当たり	増体	167.6	150.2	166.2	157.3	162.5	166.2	167.6	150.2				
	事故期間	平均	事故率	711	626	668	646	637	628	626	711				
	密度	肥育豚1頭当たり	飼育面積	17.2	3.6	10.9	5.9	16.3	6.8	17.2	3.6				
	枝肉	1kg当たり	販売単価	1,532	0,688	0,745	0,819	1,094	0,696	1,532	0,688				
	出荷	枝肉1kg当たり	格落ち金額	75.0	71.0	75.0	71.0	74.6	72.8	72.7	73.7				
原価	総上	総出荷	14以下	25,80	13,45	17,56	18,24	20,66	15,54	25,80	13,45				
	飼料	飼料	60以上	59.5	46.6	51.0	51.3	50.5	59.5	46.6	58.8				
	子豚	1頭当たり	生産原価	3,67	2,89	3,10	3,67	2,89	2,95	2,99	3,04				
	離乳時	総	2.78	10,866	5,269	7,276	8,264	8,073	10,866	7,154					
	生産原価	出荷1頭当たり	10,836	10,836	5,613	7,533	8,389	7,762	10,836	6,699					
	総原価	出荷枝肉1kg当たり	45,341	45,341	28,756	28,756	36,054	31,597	45,341	33,459					
	自家労費	出荷枝肉1kg当たり	624	624	401	405	483	434	624	454					
	控除後総原価	出荷枝肉1kg当たり	46,915	46,915	32,351	32,351	38,804	33,755	46,915	34,038					
	種雌豚	1頭当たり	所得	645	456	465	456	520	464	645	462				
	肉豚	1頭当たり	所得	34,481	28,516	32,392	28,516	34,481	29,460	31,131	30,202				
肉豚	1頭当たり	所得	462	402	432	402	462	405	428	410					
肉豚	1頭当たり	所得	50,315	▲ 58,559	▲ 1,211	14,074	▲ 58,559	50,315	▲ 25,944	28,987					
肉豚	1頭当たり	所得	2,608	▲ 4,156	▲ 58	768	▲ 4,156	2,608	▲ 1,742	1,336					
肉豚	1頭当たり	所得	36	▲ 56	▲ 1	11	▲ 56	36	▲ 24	18					
肉豚	1頭当たり	所得	14,254	▲ 18,434	▲ 665	7,033	▲ 18,434	14,254	▲ 3,895	3,741					
肉豚	1頭当たり	所得	8.1	▲ 13.7	▲ 0.2	2.6	▲ 13.7	8.1	▲ 5.7	4.2					
支払利息	対売上高	比率	1.7	0.0	0.3	1.7	0.5	0.5	0.8	0.0					
減価償却費	対売上高	比率	11.4	4.3	8.2	10.6	11.4	6.6	9.8	4.3					
肉豚	1頭当たり	支払利息	500	6	85	500	162	155	248	6					
肉豚	1頭当たり	減価償却費	3,464	1,269	2,642	3,119	3,464	2,110	2,982	1,269					
自己	資本	比率	68.3	▲ 92.5	17.6	▲ 92.5	▲ 38.4	▲ 22.0	▲ 12.7	68.3					
流動	負債	比率	719	43	263	53	55	61	43	719					
種雌豚	1頭当たり	固定負債額	364	0	364	279	192	83	0	53					
種雌豚	1頭当たり	負債額	541	78	443	541	490	331	474	78					

平成24年度 畜産コンサルタント名簿

1 常勤

担当部門	氏名	所属	資格	職名
総括	佐藤 栄治	公益社団法人新潟県畜産協会	総括畜産コンサルタント 畜産環境アドバイザー	事務局次長
	鍋谷 政広	公益社団法人新潟県畜産協会	獣医師 獣医学博士	衛生指導課長
酪農 豚	谷川 昌行	公益社団法人新潟県畜産協会	畜産環境アドバイザー 日商簿記3級	係長
肉用牛	荒井 紫織	公益社団法人新潟県畜産協会	日商簿記3級	技師

2 非常勤

担当部門	氏名	所属	資格	職名
経営	高橋 一裕	新潟県農林水産部経営普及課		副参事
	阿部 浩一	新潟県農林水産部経営普及課		副参事
	牛腸 奈緒子	新潟県農業総合研究所基盤研究部		専門研究員
飼養管理 (全般)	大矢 俊行	新潟県農林水産部経営普及課	*	副参事
飼養管理 (酪農・肉用牛)	宮腰 雄一	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科	*	専門研究員
	福留 信司	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科		主任研究員
	瀬田 剛史	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科		主任研究員
飼養管理 (酪農)	吉田 智佳子	新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター		助教
	関 誠	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科		専門研究員
	水落 栄一	新潟県妙法育成牧場	*	場長代理
	田上 和宏	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		審査役

担当部門	氏名	所属	格資	職名
飼養管理 (肉用牛)	高橋英太	新潟県農業総合研究所畜産研究センター酪農肉牛科	*	主任研究員
	佐藤昭仁	新潟県農業共済組合連合会事業部家畜課		副査役
	柳澤公二	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		調査役
飼養管理 (養豚)	大久保剛揮	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科	*	主任研究員
	藤井崇	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科	*	主任研究員
	田中淳一	東日本くみあい飼料株式会社新潟営業所営業課		審査役
家畜衛生 管	村山修吾	新潟県中央家畜保健衛生所企画指導課		主査
	森田笑子	新潟県中央家畜保健衛生所佐渡支所		主任
	木村仁徳	新潟県下越家畜保健衛生所企画指導課		主任
	馬上斉	新潟県中越家畜保健衛生所企画指導課	*	主査
	安野僚太郎	新潟県上越家畜保健衛生所企画指導課		獣医師
飼料作物	平尾賢一	新潟県農業総合研究所畜産研究センター生産・環境科		主任研究員
会計・経理	中村朋広	日本政策金融公庫新潟支店農林水産事業農業食品課		上席課長代理
	中嶋宗義	新潟県農業協同組合中央会農業対策部	◎	査役
	本間大敬	新潟県農業協同組合中央会農業対策部		監査士
	鈴木剛	新潟県信用農業協同組合連合会融資部		職員
	本間亮介	新潟県信用農業協同組合連合会農業部		職員
	石井靖之	新潟県信用農業協同組合連合会農業部		職員

(注) 非常勤の資格の*印は畜産環境アドバイザー、◎印はJA全国専門畜産経営診断士を示す。

新潟県畜産経営技術高度化推進事業

事業主体

新潟県農林水産部畜産課

TEL 025-285-5511 (内線 2966) FAX 025-280-5010

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/chikusan/1196698566592.html>

事業受託者

公益社団法人新潟県畜産協会

TEL 025-234-6781 FAX 025-234-7045

URL <http://niigata.lin.gr.jp>